

## 水道ビジョン策定にあたって

### 1. 策定の目的

小美玉市の水道事業は今後、人口減少や節水型社会の進展による給水量の減少が予想され、同様に給水収益の減少が懸念されています。また、老朽化する水道施設の更新需要に対応することが求められるなか、将来の財政収支への影響が課題となっています。

さらに、平成23年3月に発生した東日本大震災は、東日本にある水道施設に対し広範囲に甚大な被害を及ぼしました。この経験を踏まえ、地震等災害に対して安全で強靱な水道施設の実現が求められています。

このような状況から、水道事業の安定性かつ持続可能性を実現するため、平成25年度に厚生労働省が策定した「新水道ビジョン」を参酌し、小美玉市水道事業の施設事業や事業経営の目指すべき方向性を示した「小美玉市水道事業水道ビジョン」を策定します。併せて「投資」と「財政」の両面から今後の経営の方向性を明らかにする中長期的な経営戦略を画することにより、経営基盤の強化及び財政マネジメントの向上を図ることを目的とします。



### 2. 水道ビジョンの位置付け

本水道ビジョンは、「小美玉市第2次総合計画」を構成する個別計画のひとつであり、厚生労働省が公表した新水道ビジョンの基本理念「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」に基づき策定するものです。



### 3. 計画期間

**計画期間：2020年度（令和2年度）～2029年度（令和11年度）**

小美玉市水道事業水道ビジョンは、経営戦略と同時期に作成するもので、2020年度（令和2年度）～2029年度（令和11年度）の10年間の計画期間とします。また、計画の進捗状況に対応するため、必要に応じ見直しを行います。

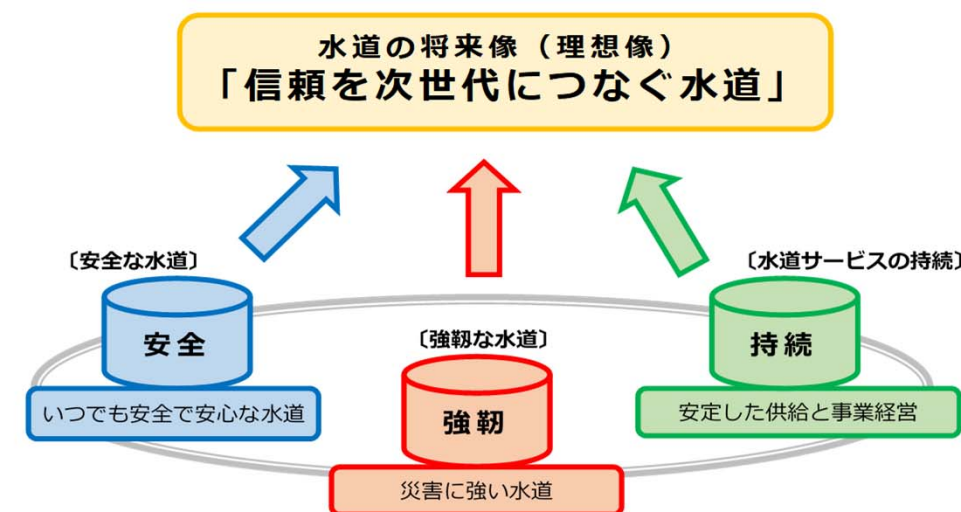
## 将来像と基本方針

### 1. 目指すべき将来像と基本方針

これからの水道に求められているものは、時代や環境の変化に的確に対応しつつ、安全な水質と必要な量を、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に水を受け取ることが可能な水道です。

このような水道を実現するために、厚生労働省健康局が公表した新水道ビジョンでは、基本理念を「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」とし、水道水の安全の確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」と設定し、これらの3つの視点から、50年後、100年後の水道の理想像を具体的に示し、これを関係者間で共有することとしています。

小美玉市水道事業では、将来像（理想像）を「信頼を次世代につなぐ水道」として定めます。



50年後、100年後の将来を見据えた水道の理想像を明示し、関係者間で認識を共有

#### 安全：いつでも安全で安心な水道

「いつでも安全で安心な水道」を実現するために、水源水質の管理を強化するとともに水源水量の確保に取り組み、水道情報の公開を充実させ、水源から給水栓までの水質を総合的に管理していきます。

#### 強靱：災害に強い水道

「災害に強い水道」を実現するために、老朽化した施設や管路の更新とともに耐震化を進めていきます。また、応急給水の確保や災害時復旧体制を整備し、災害に強い水道施設の実現に取り組みます。

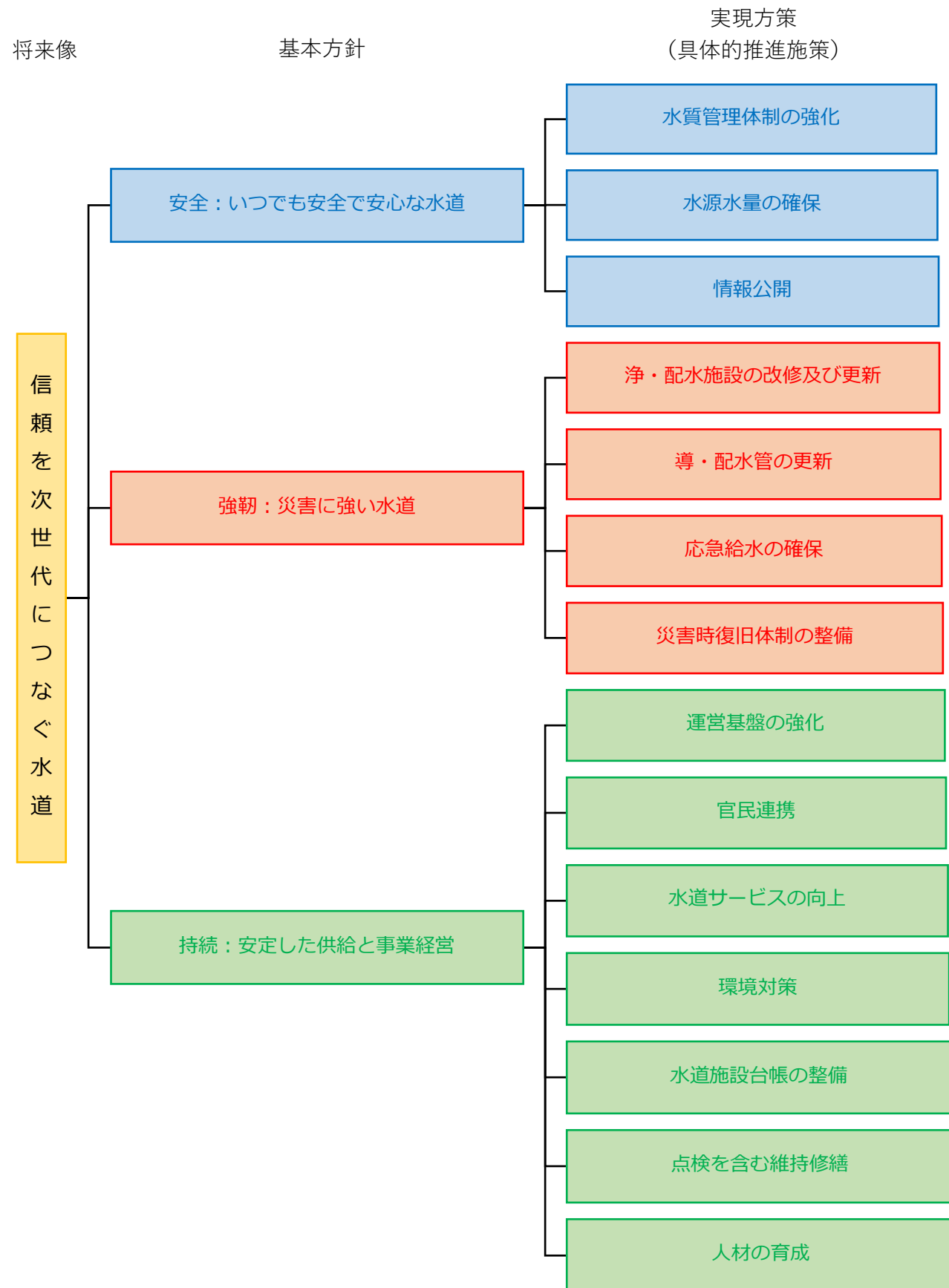
#### 持続：安定した供給と事業経営

「安定した供給と事業経営」を実現するためには、健全な水道事業を将来にわたり経営していくことが不可欠です。そのため、経営基盤の強化や人材の育成、水道サービスの向上、官民連携、環境対策に取り組む効率的かつ効果的な経営を行います。

また、今まで整備してきた水道施設の台帳を詳細に整備し、点検を含む維持修繕に取り組み、適切な資産管理を推進していきます。

◆ 実現方策

1. 施策体系図



◆ 進行管理

1. 事業計画

小美玉市水道事業水道ビジョンの計画期間内（2020年～2029年）において、主な事業を以下のように予定します。

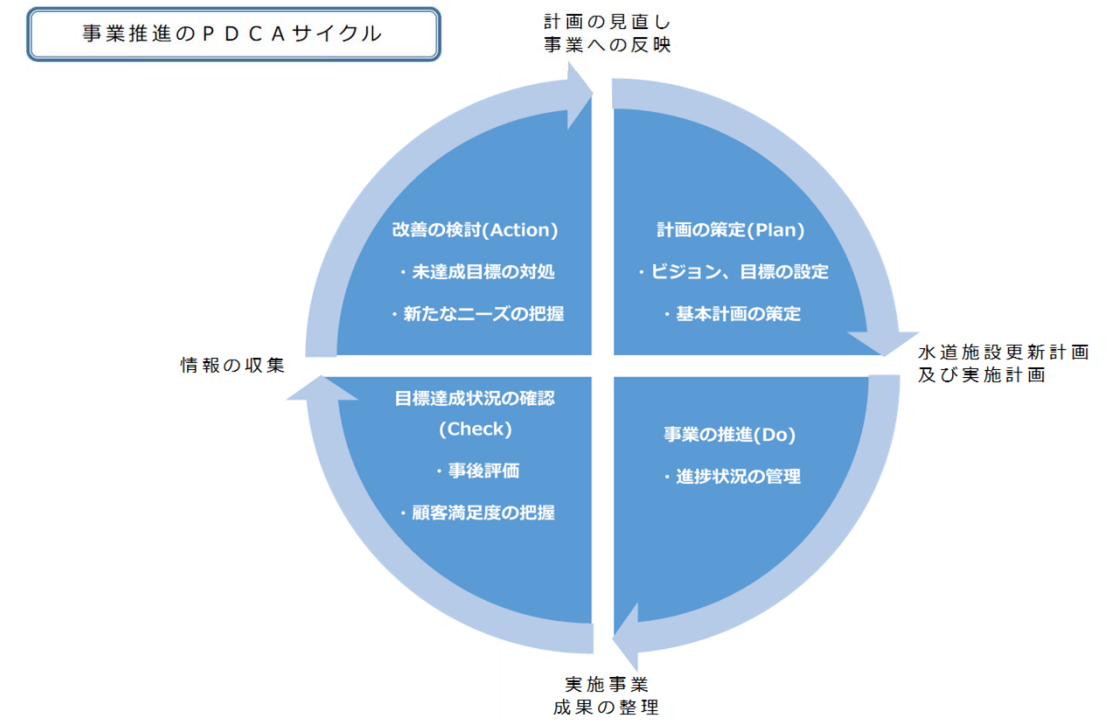
	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
水道ビジョン	→									
経営戦略	→									
水安全計画	■									
水道施設台帳	■	■								
点検計画書			■							
施設の更新	→									
管路の更新	→									

※社会情勢の変化に柔軟に対応し、必要に応じて改定・見直しを実施します。

2. 推進体制

小美玉市水道事業水道ビジョンの各施策を実施するにあたっては、定期的に進捗状況を確認し、将来の水需要や利用者のニーズの変化などを踏まえ、見直しを行っていくことが必要です。

進行管理にあたっては、下記に示すPDCAサイクルを取り入れ、進捗状況や費用対効果等を検証するとともに、市民の皆様や有識者の方々のご意見、さらには社会経済情勢等を踏まえ、必要に応じて計画を見直すこととします。



○ PDCAサイクル  
 Plan（計画）……… 従来の実績や将来の予測などをもとにして事業計画を作成する。  
 Do（実行）……… 計画に沿って業務を行う。  
 Check（点検・評価）… 業務の実施が計画に沿っているかどうか確認する。  
 Action（改善）……… 実施が計画に沿っていない部分を調べて処置する。